

## 第3回 第3期鶴見・あいねっと策定検討会 議事要旨

日時 : 平成27年1月21日(水) 15:15~17:00

場所 : 鶴見区役所6階 8号会議室

策定委員 : 小山委員長・八森副委員長

大野委員・岡留委員・荻島委員・河西委員・川合委員・斉藤委員・島田委員  
神保委員・杉浦委員・関口委員・富樫委員・藤田委員・増子委員

事務局 : 福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、福祉保健課長、  
高齢、障害支援課長、こども家庭支援課長、保護課長、総務部長、  
地域力推進担当課長、区社会福祉協議会事務局長、  
区福祉保健課、区社会福祉協議会

### 1 開会

委員長より挨拶

### 2 議事(進行:副委員長)

#### (1) 第2回策定検討会の確認について

\* 資料2「第2回策定検討会議事録」をもとに説明

→内容に関する質問・意見等なく、ホームページへの掲載について承認

#### (2) 地区別計画の策定状況について

\* 資料3「地区別計画の策定状況」

\* 資料4「地区別計画フォーマット(案)」をもとに説明

・地区別支援チーム(区役所・区社協・地域ケアプラザで編成)と地域の方々が  
連携しながら、地区別計画を進めていく。今後の検討会で、随時報告する予定。

→内容に関する質問・意見等なく、説明終了

#### (3) 区民アンケート調査の結果(最終版)について

\* 資料5「区民アンケート調査結果(最終版)」をもとに説明

・前は速報版を報告したが、最終版が完成したので、クロス集計(P16~)の  
主な部分の結果を紹介

<鶴見区への愛着と近隣との関わり具合のクロス結果(P23)>

・鶴見区に愛着を感じている人ほど、近隣との関わりが深くなっている。

<近隣との関わり具合の現状と近隣との関わりの希望のクロス結果(P27)>

・近隣との関わりが薄い方も、より近隣との関わりを深めたいと回答あり。

・全くつきあいのない75%の方も、近隣となんらかの関わりをもちたいと  
希望していると読み取れる。

<近隣との関わり具合と地域活動の参加状況のクロス結果(P29)>

・右肩上がりになっており、活動に参加している方は、近隣との関わりを  
深く持っているとして読み取れる。

<地域活動に参加していない方と近隣との関わりのクロス結果(P30)>

・右肩下がりになっており、活動に参加していない方は、近隣との関わりが  
浅い方が多いとして読み取れる。

<近隣との関わり具合と健康具合のクロス結果 (P33) >

- ・若干だが、健康に不安がある方ほど、近隣との関わりが浅い傾向にある。「簡単な頼み事ができる」と「全くつきあいが無い」とで比較すると、健康に不安がある方では、14%の差がある。「つきあいが無い」と答えている方のほうが、健康に不安を持っている割合が高い。

<地域活動への参加状況と健康具合のクロス結果 (P38・P39) >

- ・P38 は、地域活動に参加している方を集めたものだが、右肩上がりになっており、活動に参加している方は健康と思っている方が多い。
- ・P39 は、地域活動に参加していない方を集めたもので、右肩下がりになっており、活動に参加していない方は、健康に不安を感じている方が多い。

→ (3) の内容に関する質問・意見等なく、説明終了

(4) 活動団体アンケート調査の結果について

\* 資料 6 「活動団体アンケート調査結果」をもとに説明。

- ・前回の策定検討会で、活動団体にヒアリングをする前に状況を確認した方がよいのではないかという意見があり、区社協の会員の 120 団体にアンケート依頼し、約 90 団体から回答を得られた。

<回答先の種別>

- ・ボランティアグループが 1 番多かった。障がい者、高齢者、保育園、子育てサークルなど幅広い活動団体から回答を得られた。

<単純集計の結果>

- ・「鶴見・あいねっと」の認知度は、90 団体中、知らないのは 4.4%。
- ・各団体の取組として、「鶴見・あいねっと」の 3 つの柱の取組が「充実してきている」「より積極的な取組が必要」と回答がある反面、健康づくりに関する取組が弱いことがわかった。
- ・各団体より、健康づくりに対する関心が低いとか、取り組む時間がないとの回答があったので、次期計画の中で、健康づくりの取組を進めていくことも必要ということが表されていると思う。
- ・自由記述の「あいねっとへの意見」中で、「評価がきちんとできるように数値化した方がいい」「団体に出向き、説明すべきだ」という意見があった。
- ・保育園の方からは、「現場にゆとりがなく、良い環境があっても、地域に開かれた活用ができず残念」という意見や高齢者施設の方からは、「地域の町内会や地区社協と協働し、地域福祉活動に積極的に取り組めるようにしていきたい」という意見をもらった。

<クロス集計の結果>

- ①「団体種別」と「他の団体や関係機関などとの関係がありますか？」の関係
  - ・総トータルでは、自治会町内会、地区社協と関係がある団体が多かった。
  - ・高齢者関係団体は、連合町内会との連携が多くみられた。
  - ・ボランティア関係団体は、学校や地区社協との連携で育成に努めており、保育園は、子育て関係団体や自治会町内会との連携が深いことがわかった。
- ②「団体種別」と「活動をする中で、困っていることはありますか？」の関係
  - ・総トータルでは、メンバーの固定化、活動資金の不足が多くあがっていた。
  - ・ボランティアや地区社協関係団体は、活動のマンネリ化、メンバーの固定、障がい者関係からは、活動の資金不足、高齢者関係は、他の団体と交流する機会がない、保育園からは、参加者が集まりにくい事があがっていた。
  - ・このような結果を受け、各活動団体にヒアリングしていきたい。

→ (4) の内容に関する質問・意見等なく、説明終了

(5) 前回までの議論を踏まえた、第3期の方向性について

\* 資料7「第3期鶴見・あいねっとの方向性(案)」をもとに説明

- ・ 前回までの主な変更点や確認事項を振り返る。
- ・ 幅広い区民に使えるためにも、子どもでもわかる表現にしていく。
- ・ 基本理念は、2通りの(案)あり。

(案1) 安心・健やか・つながる「つるみ」

(案2) 健やか・つながり・支えあう「つるみ」

- ・ 推進の柱に、「健康」を入れ込む。バランスを考え、柱は3本とする。

柱①：つながりのある地域づくり

(キーワード：①交流、②場・機会、③人材)

柱②：必要なひとに支援が届く仕組みづくり

(キーワード：①支えあい(互いの理解)、②見守り(安心・安全)、③情報)

柱③：健やかに暮らせる地域づくり

(キーワード：①健康)

- ・ それぞれの柱の行動目標や具体的取組(地域)の例を伝える。

→ (5)の内容に関する質問等なく、説明終了

(6) 話し合い～第3期の行動目標・具体的な取組～について

\* 資料8「ニーズ把握のまとめ」をもとに説明

◆ 2つのグループ(A・B)に分かれて、話し合いを行う。

話し合い終了後、グループで出た主な内容を共有する。

【Aグループ】

- ・ 災害時の関係の取組は大切。要援護者の取組も行っているが、顔の見える関係づくりが大切
- ・ 今後の介護保険法の改正では、地域の取組につなげていこうとする動きもあり、「鶴見・あいねっど」でも、地域と関係機関との連携を深めていくことが大切
- ・ 1人暮らしの方が認知症で徘徊となると、地域とのつながりがないと把握やその後のフォローが難しいのではないかと？また、徘徊や入院から自宅に戻って来た時、地域での対応の仕組みが出来ていないのではないかと？
- ・ こども110番はあるが、入りやすい状況ではないのではないかと？行政的な敷居が高いものでなく、気楽に相談できる場所があればいいと思う。
- ・ 孤立している方は、情報が行き届きにくいので、色々な方が駆け込める場所があればいいと思う。
- ・ 認知症の幅広い普及啓発、関係機関との連携を深めることで、新たな対策や取組ができないか？
- ・ 元気づくりステーション等のサロンやノルディクウォーキングなど、健康に関する活動が活発になってきているが、リーダーとなる方が必要
- ・ 年に1回程度のイベントだと継続的な健康づくりの取組が難しいので、継続的に実施できる取組や仕組みづくり必要。
- ・ 地区の町会や連合会と関連してないと、地域とつながる機会が少ないのではないかと？
- ・ 活動している人同士の情報共有の場が必要。地区のあいねっど活動など、活動している方が集まる機会を利用して情報共有をしたり、1度集まった方が継続的に活動できたりする応援や仕組みづくりが必要

## 【Bグループ】

(場)

- ・場所があっても、上手な活用ができなければ、意味がない。
- ・遊ぶ場所があっても、子どもが遊んでいないケースもある。
- ・町内会館をうまく活用していく。

(担い手・コーディネート)

- ・その方の特性をみて、見極めながら、地域の活動につなぐことができる方が必要
- ・地域ケアプラザや区のボランティアセンターでもコーディネートをしているが、地域の活動団体にもその目を広げていくことで、新たなつながりが広がるのでは？

(お互いの理解)

- ・お互いが一歩進んで、理解することが大切
- ・地域で、養護学校をサポートしていこうという体制づくりが出来ていたのだが、学校側との連携がうまく続かず、せつかくの地域の活動の力が弱まっているケースもある。
- ・外国籍のこども達の支援が必要

(健康づくり)

- ・「健康」の言葉のもつイメージは、人によって幅がある。
- ・「健康」に「生きがいづくり」を含めることで、体の健康や心身の健康にもつながるのではないか？

(進行役)

- ・全体的には、「一歩踏み込んで」ということが多かったと思う。
- ・場はあるが、使える状況でどうしていくのか、認知症の方の夜間や休日の対応をどうするのか等、今やっている活動の中で見えてきたところに、もう一歩、具体的に踏み込んで入っていくことを、次の計画に盛り込んでいけばいいと思う。
- ・今ある話し合いの場に出て来ていないボランティアさんや地域の方々を含めて、共有や交流、意見交換の場を作っていくことで、もっと広く、「あいねっと」のネットワークが深まることにも触れられていた。
- ・「健康」の言葉の定義や意味は、人により捉え方の違いがあるが、「健康」に「生きがい」をもってくると、疾患があっても、その方らしい「健康」や「生き方」「生きがい」を意識した計画になるのではないか？
- ・介護保険が今後改正予定だが、これまで受けてきたサービスが活用しにくくなるという話もある。そうした方々の健康を意識した話し合いも行われたと思う。
- ・本日出た多くの意見を事務局でまとめながら、次の会議までに整理してもらえればいいかなと思う。とても具体的で、日頃の支援をしているの方々ならではの意見が多く出たので、第3期の計画に反映できるようにしていければと思う。

## 3 閉会

委員長より挨拶

**次回**：第4回 第3期鶴見・あいねっと策定検討会 27年5月中旬頃の予定